

学校だより

第26号
令和8年度

いつも心にあいうえお

令和8年 7月22日(水)

発行：那覇尚学院高等専修学校

文責：校長 初鹿野修

「あいさつとことば」
朝のあいさつは、自分の決意をあらわすもの!!

生徒の皆さん、朝、起きた時に一緒に住んでいる家族に「おはよう」とあいさつをしていますか？学校に来た時に、職員室に向けて「おはようございます」としっかりあいさつできていますか？朝のあいさつの中には、「これからぼる一日を頑張ろう」とか「しっかりやろう」という決意と一緒に住んでいる家族、または職員室にいる私たち職員は感じます。「いってきます」という言葉についても同じだと思います。そのような言葉が、家族や学校の職員、また学校にいる仲間、そのほかの専門学校の先輩たちとの信頼や絆の強まりのもとになると思っています。黙って起き、黙って朝食を食べ、黙って学校へ行くということはありませんか。まずは、一声だしてみましょう。職員室の私達も毎日、朝のあいさつは、気にしています。健康のバロメーターでもあります。元気な声での挨拶やしっかり顔をみせての挨拶は、「今日の学習はできるな」と感じます。

ぜひ、登校時の「おはようございます」、帰りの「さようなら」が自然と顔を見て、そしてある程度で言えるようになります。学校の雰囲気は良くなっていくと思っています。高等専修学校の生徒は、みんな「元よく挨拶ができることが自慢です」と胸を張って外部の方々に言えるように、自然に、普段から最初は、意識して取組んでくれるといいですね。社会に出ると、「あいさつ」は、何より大事です。

ことわざに、「以心伝心」とか「阿吽の呼吸」という言葉があります。いずれも言葉を交わさなくても気持ちが通じるということに使っています。もちろん、そのような状況もあります。それが大切な時もあります。しかし、「言葉」は人の心を表現するものであり、人の心を伝えるものだと思います。特に人権教育の面からも「きれいな言葉遣いをする」ということは大切なことです。言葉の大切さについて理解し、「チクチク言葉」「ふわふわ言葉」(小学校ではよく使っています)について、自分を振り返ってみましょう。

今年の国際交流学習は
ペルーからの先生 アラタマキコ先生

ペルーはどこ？
南米でスペイン語
スペイン語で自己紹
介をしました。



ペルーの国旗のお話



ペルーのジャガイモ

ペルーのジャガイモは色とりどり。いろいろな料理に使われているそうです。

ペルーの学校・世界遺産・街並みスライドでたくさん学びました。また、ペルーの各地域のダンスも地域に合わせたダンスで興味深く見る事が出来ました。

私たちは、日本・沖縄の紹介をしました。簡単な日本の遊びも紹介し楽しみました。

素敵な、そして中身の濃い国際交流の時間でした。

茶のみ話 恩師とお孫さんのマイ・ウェイ 大城智子(50)

10年前、私は恩師の定年に際し、本欄へ感謝の思いを投稿した。恩師、初鹿野修先生の教えは「いつも心にあいうえお」「愛」「意欲」「歌」「笑顔」「思いやり」。その言葉は、今も私の心にある。

先日、先生とお孫さんが共演する演奏会を聴く機会があった。お互いを思いやりながら音を重ねるサクソフとピアノの「マイ・ウェイ」。歩んでこられた人生の深みと、お孫さんたちの未来への祝福が伝わる、先生らしい選曲だ。

温かな音色に聴き入っていると、頭の中には長瀬剛さんの「乾杯」が流れてきた。かつて6年3組の私たちに先生が贈ってくれた一曲で、当時の記憶もよみがえった。

「マイ・ウェイ」も「乾杯」も祝福の曲である。当時は、その曲に託された先生の思いの深さに、十分気付いていなかったけれど、お二人のセッションを前に、先生の愛情と希望の大きさにあらためて胸を打たれた。折に触れて、先生の教えや思い出はよみがえる。そのたびに、先生との出会いが今の私を支える礎であることを実感する。

年に1度の集まりは今も続き、1期下の仲間も加わって、新たな思い出に花が咲いている。先生の教え子は県内にどまらずブラジルにもおり、定年後の今も、専修学校の校長として、新たな教え子たちと向き合っておられる。

いつか年代や国を超えて教え子たちが集い、先生のサクソフ演奏に耳を傾ける日が来たなら、それはどんなにうれしいことだろう。

(宮野湾市、会社員)

私事ですみません。新聞に私の事を小学校6年生の頃の担任をしていた子が、投稿してくれました。今は、子育て真っ最中のお母さん私の退職の時も投稿で今回が2度目。嬉しいものです。嬉しさのおすそ分けです